

## 溶融炭酸塩型燃料電池の運転開始

2004年5月28日  
石油資源開発株式会社

石油資源開発株式会社（所在地：東京都品川区、社長：棚橋祐治）は、長岡鋳業所片貝鋳場（新潟県小千谷市）に導入した「溶融炭酸塩型燃料電池」250kWの運転を今般開始しました。この燃料電池により片貝鋳場で使用する電力の約30%をまかない、環境負荷の低減に取り組んでいます。なお、燃料には片貝鋳場で生産する天然ガスを用いています。

「溶融炭酸塩型燃料電池」は、従来の燃料電池と比べて発電効率が高く、発生する二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が軽減され、また、大気汚染の原因となる窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）や硫黄酸化物（SO<sub>x</sub>）をほとんど排出しません。

当社は今後とも環境負荷の低減に向けて、全社的な取り組みを行ってまいります。

本件に関するお問合せ先：総務部広報グループ 電話：03-5461-7413

